

ジョン王と大司教

- 1 これからすぐに 昔話を始めましょう
ジョン王と呼ばれた高貴な王は
イングランド生まれの権柄^{けんべいづく}尽
悪行ばかりはたらいて 慈悲のかけらもない男
- 2 高貴な王は心底いらだつておりました
カンタベリー大司教の
教会運営と贅沢に腹をたて
早馬で 大司教を呼びつけました
- 3 早馬で大急ぎ 大司教を呼びつけました
王曰く 「大司教の分際で王より豪華な家を持ち
連日のように
百人の客を家に招いて宴会ざんまい
間違いなく 五十本の金の鎖で身を飾り
ベルベットのコートに身を包んでおった」
- 4 大司教はすぐに宮廷へやって来て
ジョン王の前へ出ました
ジョン王が大司教を見るやいなや
「ああ 大司教よ よくぞ参った
この町で第一級の歓待だ
王冠に反逆したその罪で」
- 5 「王さま ご存知のように
使いましたのは私財のみ
真正銘わたしの財を使ったとて
よもやお咎^{とが}めはなさるまい」
- 6 「いいや 大司教よ 三つの問いに答えなければ
おまえには死んでもらおう
首を刎^はねたら
おまえの財産はすべてわしのもの
- 7 「一つ目は この場で答えてみよ
わしの頭の王冠にかけて
陽気な貴族たちのおる前で
ペニーで言えば わしの価値はどれくらいか
- 8 「二つ目は 迷わず答えてみよ
わしの世界一周にはどれくらい時間がかかるのか

三つ目は 今 問うている間に答えてみよ
わしが考えておることは何か
二十日間の猶予をやってもよい
戻ってきて答えてみよ」

9 大司教は王におやすみを言いました
ケンブリッジからオックスフォードまで探しても
大司教に答えを教えてくれるほど
賢い博士はおりません

10 大司教の心は晴れず
重苦しく 悲しいばかり
田舎の家に身を隠し
憂鬱を晴らそうと思いました

11 田舎に住む腹違いの弟は猛々しい暴れん坊
大司教の羊を世話する一介の羊飼
いすぐに羊飼いはかけ寄って
「兄さん ようこそいらつしやいました

12 「そんなに悲しげに 何をお悩みで
昔はあんなに元気で陽気だったのに」
「弟よ 何も悩んでなどおらぬ
おまえに言っても仕方ないこと」

13 「兄さん 諺にもあるでしょう
愚か者にも賢者の知恵
ぼくに悩みを打ち明けてごらんなさい
役には立たずとも それでもともと」

14 「宮廷へ駆け付け付けたのじゃ
ジョン王の前へな
王は言いおった
わたしが王冠に反逆したと

15 「王が課した
三つの問いに答えなければ
わたしの豊かな土地を没収すると
首を刎ねると言うのじゃよ

16 「一つ目は その場で答えてみよと言う

王の頭の王冠にかけて
陽気な貴族たちのおる前で
ペニーで言えば 王の価値はどれくらいかと

17 「二つ目は 迷わず答えてみよと言う
王の世界一周にはどれくらい時間がかかるかと
三つ目は 今 問うている間に答えてみよと言う
王の考えておることは何かと」

18 「兄さん あなたは博学の知識人
そんな些末なことに何をお悩みか
司祭の服を貸してください
ぼくが宮廷へ行って答えましょう

19 「いやと言わず 召使いを貸してください
道中のため 一番良い馬も貸してください
宮廷へ行って話をつけます
ジョン王と話して 王の反応を見てきます」

20 大司教は大急ぎで支度して
羊飼いは馬に乗り召使いを連れ いざ出立しゅったつ
羊飼いは間違はなく陽気な男
一行は堂々と宮廷へやって来ました

21 羊飼いは宮廷へやって来て
ジョン王の前へ出ました
ジョン王が羊飼いを見るやいなや
「ああ 大司教よ よくぞ参った」
羊飼いは兄の大司教に生き写し
王には見分けがつきません

22 「大司教よ よくぞ参った
三つの問いに答えてみよ」
「よろしければ
一つ目の問いをお聞かせください」

23 「一つ目は この場で答えてみよ
わしの頭の王冠にかけて
陽気な貴族たちのおる前で
ペニーで言えば わしの価値はどれくらいか」

24

羊飼いだく 「はっきり申し上げて
王さまの価値は二十と九ペンス分
われらを救い給いし主イエスは
忌わしいユダヤ人のせい
三十ペンスで売られました
主イエスは王さまより一ペニーだけ上なのです」

25

王は笑って 聖アンデレにかけて言いました
「わしの価値がそんなに低いとは思いの外^{ほか}
二つ目は 迷わず答えてみよ
わしの世界一周はどれくらい時間がかかるのか」

26

「王さまを嘲^{あざわら}る暇はございませんが
朝にはお日さまと共に早起きし
上る朝日を追いかけてごらんなさい
そうすれば 偽りなく分かります」

27

「きつと納得されるでしょう
出てきた同じところへ向かうのです
間違いなく 一日二十四時間で
王さまは世界を一周されるのです
ご存知のように 次の日もまた
太陽とともに世界を一周されるのです」

28

「三つ目は 今 問うている間に答えてみよ
大司教よ わしの考えておることは何か」
「では はつきりと申し上げます
心底 わたしをカンタベリー大司教とお間違い」

29

「何だと 違うのか 本当のことを言え
聖母マリアにかけて おまえこそあの大司教」
「本当を言えば違うのです
わたしはしががない羊飼いだ 兄は家におります」

30

「何だと そうであれば
ここでおまえを大司教にしようぞ」
「とんでもない お待ちください
大司教になどなる気はさらさらありません
そんな地位にはふさわしくありません
読み書きすらできないのです」

31

「何だと そうであれば
年に三百ポンドの年金をつかわそう
遠慮は要らぬ
羊飼いや 宮廷へ出向いた褒美に取るがよい

32

「大司教の土地も命も
おまえに免じて救ってやろう
大司教とおまえには腹を立てる理由もない
これは大司教とおまえへの詫びのしるし」

33

羊飼いは それ以上は何も言わず
褒美を受け取り帰りました
兄の大司教のところへ戻って来ると
大司教はすぐに顛末を聞きました

34

「兄さん うまくやりました
あなたの土地も命も大丈夫
王は兄さんに何の怒りもありません
この金は兄さんとぼくへのお詫びです

35

大司教の心は晴れました
「弟よ おまえの労をねぎらおう
一年に五十ポンドの年金と
豊かな土地を与えよう」

36

.....
.....
.....
「金輪際 わが身を卑下して
兄さんの羊の番をしなくてもよくなりました」

37

こんなに賢い羊飼いのことを
聞いたことがありますか
大司教を喜ばせ
ジョン王の三つの問いに答えたのです
一年に三百五十ポンドの年金を手に入れた
羊飼いのことを聞いたことがありますか

38

こんな羊飼いの話は初めてです
まったく初めて これではお終しまいです
こんなに多くの財産を手に入れた羊飼いの話は

羊飼いで王だったダビデ以外には初めてです

(中島久代訳)